調査事例紹介：その 46　島熊山と万葉集

豊中市立図書館には、毎日いろいろな調査の依頼が届きます。

そのうちの一部をご紹介します。

Q．万葉集にも登場するという、豊中市北部にある島熊山（しまくまやま）の位置と高さはわかるか。

A.　国土地理院の「基準点成果等閲覧サービス」で、島熊山の四等三角点の位置が確認できる。標高、緯度経度もあり。豊中市街図と照合すると、豊中市新千里西町２丁目と緑丘２丁目の境界付近に該当。万葉集巻 12 に収録された「玉かつま島熊山の夕暮れにひとりか君が山路越ゆらむ」の歌に詠まれた当時の島熊山がこの位置であったかは不明。『新修豊中市史 第３巻　自然』では、中国縦貫道から大阪府立豊島高校にいたる緑地帯を島熊山丘陵としている。

Q．万葉集の時代にア行のエとヤ行のエに違いがあったということが書かれた本を読みたいのだが・・・。

A.「古言衣延弁」奥村栄実著。国会図書館デジタルコレクションで、インターネット上で読むことができる。

日本国語大辞典（小学館）によると、「江戸末期の語学書。１巻。奥村栄実著。天暦（９４７～９５７）以前にはア行・ヤ行のエに音韻上の区別があり、それが万葉仮名の書き分けに反映していることを明らかにしたもの。」

これらの事例について詳しく知りたい方は、豊中市立図書館のサイトの「レファレンス事例をさがす」のページから、フリーワード「万葉集」「島熊山」で検索してみてください。